



# 会報 叫び

会報「さけび」 第7号 2月7日/ '10

荒瀬ダムの撤去を求める会 会長 本田 進  
元坂本村議会議員と町民有志の会代表 木村征男  
鮎婦印刷所 0965-45-3325 saifukuji@sakamoto-catv.jp

2月3日知事記者会見翌日の

西日本

熊日

朝日

熊日



### 住民「すぐ着手を」

水利権延長に反発根強く 漁業者 思いがなかった



潮谷義子・前知事

### 地元の思い受け止めよ

2002年に荒瀬ダムを撤去を表明した潮谷義子前知事の話。撤去が明確になって戻ってきた。これに思い方向に向かと思

撤去を表明した潮谷義子前知事の話。撤去が明確になって戻ってきた。これに思い方向に向かと思

砂だらけ、延長するのであれば、浦島知事はダイムスケジュールを説明する責任がある。



読売



2月3日16:00 中津道に100名

知事の記者会見の時刻に合わせて、旧中津道小学校に110名が集まり、知事の表明に対する思いを出し合いました。

撤去工事や発電についての具体性がない。県は今後も説明もせず進めるのではないかと。荒瀬ダムは親子二代にわたり対立の村をつくってきた。さらに二年も待たせることは止めてほしい。二年延びたらまたぞろ。今年度はバンザイできない、信用できない。昨年の六月のようにまたひっくり返されるのではないか疑う。貯水せずに調査をせよ。

Uさん  
Hさん  
Kさん  
Yさん  
Hさん

知事は更新が途中から新規に変わったというが、元からそうだった、ごまかそうとしている。知事の任期が撤去始まりか、二年という根拠は全くない。「ヤジ」そうだ、おどまそんな時やもうおらんぞ」大臣の言葉に知事が駄々をこねているということだ。

撤去費用がだんだんふくらんでくるのに根拠がない。(木村代表の補足II与奈久の井戸掘削だけに3億円も組んでいる) 予算はあるだけで少しずつやればいい。

2年間というのは容認できない。すぐ撤去にとりかきなさい。

何億とかけて土砂を運び出しているが、水をためなければ必要ないことである。

**これが民意です**

会場でのこの意見と新聞の見出しがわたしたち坂本住民の思いです

## 関係者・学識者の談話

熊日

潮谷義子前知事 浦島知事が川辺川ダム建設反対を表明した時言われた「球磨川は宝」という考え方を荒瀬ダムの存続方針は矛盾していただけに、今回の撤去決定で二つのダムの考え方が初めて理論的に一致したのではないかと。荒瀬ダム撤去は宝が一致

地元の福岡和敏八代市長 浦島知事の荒瀬ダム存続判断に不信感を持っていたが、撤去の決断は評価する。大変うれしニュースだ。ただ、県は発電を継続したい考えのようだが根拠は何か。納得がいけない。新たな水利権取得は球磨川漁協の同意が必要で、困難だと思う。県は水利権が切れる3月末で発電をやめ、撤去に向け雨々と作業を進めるべきだ。県は撤去費用の試算をやり直すべきだし、国も何らかの支援を考慮してほしい。

堤裕昭・県立大環境共生学部教授(海洋生態学) 荒瀬ダムを撤去すれば、球磨川や八代海沿岸の本来の生態系を取り戻すことができ、素晴らしい決断だ。河川から海へ土砂が供給され続けられ、流域の自然環境は確実に回復する。短期的にはマイナスの影響も出るだろうが、数十年先を考えるとプラスの要素がはるかに大きい。豊かな自然を取り戻した球磨川は県民にとって大きな財産になる。全国のダム撤去の先鞭をつけてほしい。

下津昌司・元荒瀬ダム対策検討委員会委員長 浦島知事の方針転換に賛否を言う立場にはない。国内初のダム撤去であり、委員会のこれまでの検討結果も生かしてほしい。撤去工事は手探りで進めなければならぬ部分がある。多くの経験を

持つ国土交通省や専門家とも協力して、ぜひ成功させてもらいたい。今後のためにも工事の過程をきちんと記録として残すことも大切。何より地元の理解と納得を得た上で、慎重に進めてほしい。

田中康夫衆院議員(元長野県知事) 二転三転したとはいえず、熊本県が廃ダムに踏み切ったのは画期的だ。事業費の8割が中央のセネコンに落ちるダム建設と異なり、地元の土木建設業が主体となる廃ダム事業は地域に確かな雇用と活力を生み出す新しい公共事業の在り方。ダム撤去に政府は積極的に財政支援すべきだ。新たな治水方針を示さず、脱ダムをお題目みたいに唱えるだけの政府や国土交通相の覚悟のほどが、熊本県の決断で問われることになった。